

最新・最良の医療を播磨姫路地区の皆様へ届けます

私たち姫路赤十字病院消化器センターは、中播磨地域の中核病院として、救急医療、集中治療、癌医療に積極的に取り組み、高度な医療技術と使命感をもって診療にあたっています。癌診療では、地域がん診療連携拠点病院として、手術を中心に薬物療法・放射線療法を組み合わせた集学的治療を推進しており、低侵襲治療にも一層力を入れています。

外科および消化器センターでは、食道・胃・大腸・肝臓・胆道・膵臓といった幅広い領域を専門的に診療し、年間の手術件数は約1,200件に達します。なかでも、食道癌50件、胃癌100件、大腸癌220件、肝臓癌60件の実績はいずれも兵庫県内で1・2を争う規模であり、250件程度の緊急手術にも対応しています。当地区で唯一、日本胃癌学会認定施設Aおよび日本肝胆膵外科学会肝胆膵高度技能修練施設Aに認定されており、ロボット支援手術も年間150件に上ります。

High volume centerで行われる手術は合併症が少ないことが報告されており、当院でもNCD（National Clinical Database）の平均値を上回る良好な成績を維持しています。安心して大切な患者様をご紹介いただけるものと自負しております。

今後も最新・最良の医療を播磨姫路地区の皆様にお届けできるよう、地域医療の一翼を担ってまいります。引き続き、姫路赤十字病院消化器センターをどうぞよろしくお願いいたします。



消化器センター長(兼)第二外科部長
松本 祐介

消化器センターは以下のメンバーで対応しております

外科		内科	
消化管担当	肝胆膵担当	消化管担当	肝胆膵担当
松本 祐介	甲斐 恭平	堀 伸一郎	中村 進一郎(肝臓)
信久 徹治	遠藤 芳克	高木 慎二郎	高谷 昌宏
河合 毅	國府島 健	筑木 隆雄	高田 斎文
坂本 修一	伏見 卓郎	高島 健司	
小林 照貴			

Topics

JCEPによる第三者評価を受審し、認定を受けました。



当院は臨床研修指定病院(※)として研修医を受け入れており、NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による第三者評価を受審し、2025年4月1日付で4年の認定を受けました。NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)とは、臨床研修病院における研修プログラムや研修状況の評価を行い、研修プログラムの改善や質の向上を図り、医師の養成に寄与することを目的とする第三者評価機構です。当院では今後も引き続き日本の未来を担う優秀な医師を養成するため、質の高い研修医教育体制を提供していきます。

※医学部を卒業し医師免許を取得した医師(研修医)が卒後2年間、基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につけるために経験を積む病院



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院

〒670-8540 兵庫県姫路市下手野1-12-1

電話 079(294)2251代

URL: <https://himeji.jrc.or.jp/>



ホームページ

姫路赤十字病院だより No.49

発行日 令和7年7月

発行 姫路赤十字病院

発行責任者 院長 岡田 裕之

編集責任者 広報推進室長 五百蔵 智明

姫路赤十字病院だより No.49

消化器内科・外科が連携し
地域に寄り添った医療を提供します。



消化器センター長
第二外科部長

松本 祐介

Matsumoto Yusuke

消化器副センター長
消化管内科部長

堀 伸一郎

Hori Shinichiro

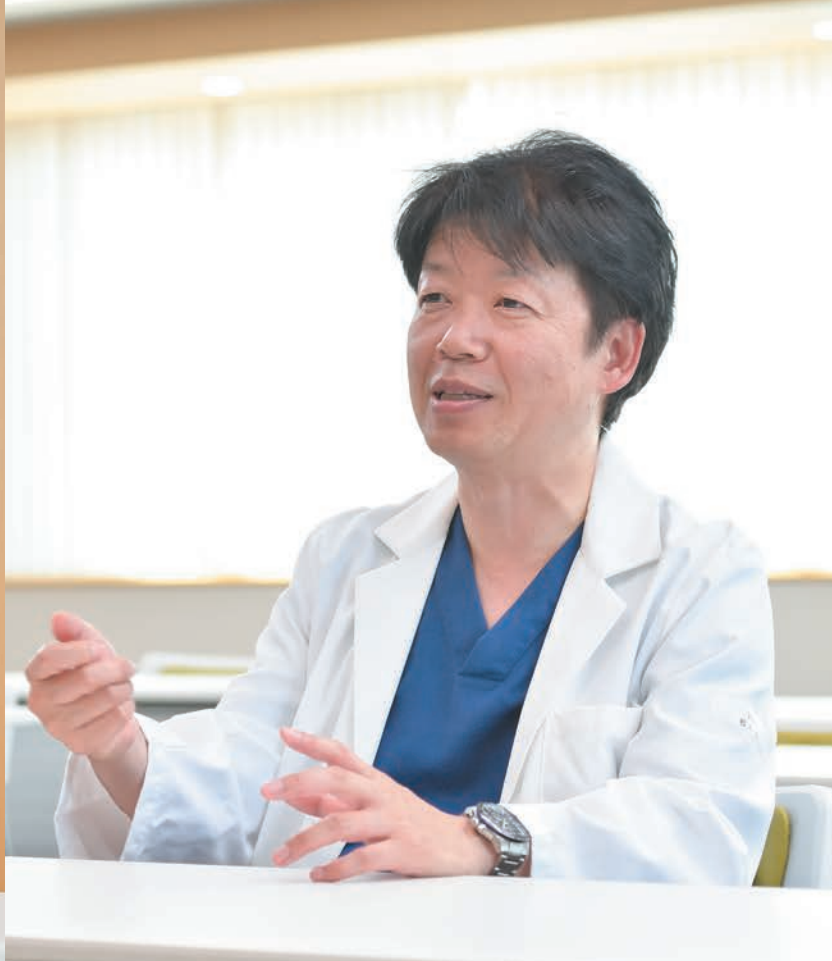


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院



消化器副センター長
消化管内科部長
堀 伸一郎
Hori Shinichiro



消化器センター長
第二外科部長
松本 祐介
Matsumoto Yusuke

消化器疾患に対し、外科・内科の 切れ目がない総合的な診療を行っています。

姫路赤十字病院は1908年に創立以降、地域に寄り添い、地域とともに発展してきました。当院の消化器疾患に対する診療においては、がん診療、救急疾患に対する対応、複数科の強固な連携が特徴的であり、強みでもあります。2022年に消化器センターが設立され、従来以上に、消化器疾患に対し、外科・内科の切れ目がない対応ができるよう心がけています。消化器センターの機能のうち、特に当院が得意とするがん診療についてご紹介します。

消化管疾患に対する当院の強み

●当院のがん診療

当院は、地域がん診療連携拠点病院であり、がん診療における高度の診療が可能です。手術、薬物療法、放射線治療、内視鏡治療など、兵庫県において有数の実績をもっています。

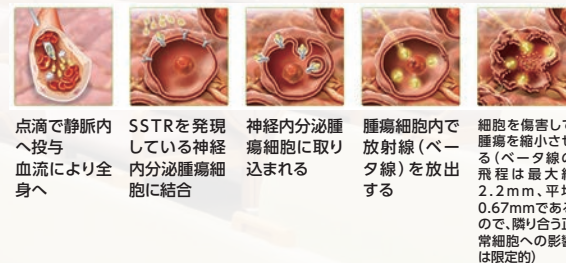
診断においても、CT、MRI、PET-CT、内視鏡など精密な診断が可能な機器を用いて日常診療を行っています。がんの診断後は、カンファレンスを行い、手術方法や適応についても治療前に十分な議論を行います。

治療についても、切除可能な場合は、手術支援ロボットダ・ヴィンチや腹腔鏡を用いた低侵襲治療、内視鏡治療、マイクロ波凝固などの局所療法を行います。

切除不能であった場合は、各種ガイドラインを原則遵守しつつ最新のエビデンスも取り入れ、患者さんにとって最良と思われる化学療法のレジメンを選択します。

近年では、切除不能の消化器神経内分泌腫瘍に対する、ルテチウムオキシドトレオチド(ルタテラ®)の内用療法も開始しています。ルタテラ®の内用療法可能な施設は兵庫県内では4施設のみであり、西播地区では、当院のみで治療が可能です。

PRRTによる神経内分泌腫瘍治療の実例



標準治療が終了した、もしくは終了見込みの消化器がんの患者さんには、がん遺伝子パネル検査を行うことで、がん細胞の遺伝子変異に基づく治療薬が見つかることがあります。

当院は、西播地区では、岡山大学と連携をとり、検査の提出や、検討が可能な唯一の施設です。

また、がん遺伝子パネル検査の結果、生殖細胞系列の病的バリエーションが診断されるケースもありますが、遺伝カウンセリングが可能な態勢を構築しております。

消化器がんには、遺伝性大腸癌、遺伝性膵癌や遺伝性胃癌も稀にみられますが、遺伝性消化器腫瘍に対して

も、がん発症者はもちろん、血縁者に対しても遺伝カウンセリングやサーベイランスを行っています。2025年度より、姫路市では遺伝性腫瘍症候群に対する検査等助成事業も始まっており、当院でも対応が可能となっています。

●救急疾患に対する対応

救急患者さんに対しては、総合病院の強みを活かし、24時間、365日態勢で診療を行っています。消化管穿孔、虫垂炎、急性胆のう炎等の外科手術適応症例には緊急手術を、胃十二指腸潰瘍や大腸憩室出血などの消化管出血に対しては緊急内視鏡診療を、総胆管結石性胆管炎に対する胆道ドレナージ、感染性肝膿瘍に対する嚢胞穿刺、ドレナージ術等を行っています。必要時は、放射線科医による血管内治療を行うことも可能です。

●複数科、多職種の強固な連携

消化器疾患の診療には、当院では外科、内科、放射線科をはじめ、複数科が連携し、より確実で、迅速な対応を行っています。特に近年では、ニボルマブ(オプジーボ®)に代表される免疫チェックポイント阻害薬が、化学療法においてがん腫を問わず多く使われるようになり、それに伴い免疫関連有害事象(IrAE)に対しても主診療科のみならず看護師、薬剤師など多職種でのチーム医療が重要となっています。カンファレンスなどで密なコミュニケーションをとり、日頃より顔が見え、自由闊達な意見を交わせる良好な関係を築いています。

今後も、地域の患者さん、クリニックや中核病院の先生方より選ばれる病院になりたいと存じます。また、患者さん、地域の先生方、当院の3方それぞれが満足できる「三方よし」の理念で、これからも消化器センターを運営して参りたいと存じます。

患者さんのご紹介に際し、外科、内科のどちらに紹介したらよいだろうかと迷われる場合は、是非、消化器センター宛てに、ご紹介ください。

引き続き、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

今後も、何卒よろしくお願い申し上げます。

消化器副センター長(兼)消化管内科部長
堀 伸一郎